OPGE通信
Office of Promoting Gender Equality in Tokyo Gakugei Univ.
Vol. 19
November. 17

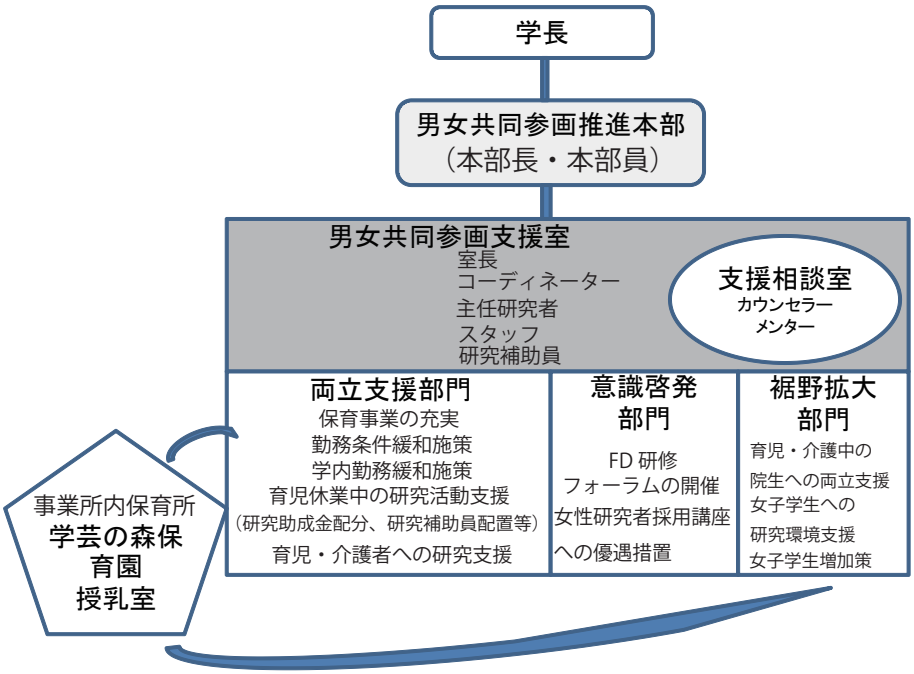
女性研究者研究活動支援事業に採択される

科学技術振興機構（JST）が募集した科学技術人材育成費補助金のひとつである「女性研究者研究活動支援事業」に本学が応募し、全国 10 大学の 1 つに選ばれました。この事業は、女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、出産・子育て等のライフイベントと研究を両立するための環境整備を行うことを目的とした取組みに助成されるものです。

本学は、2006 年に男女共同参画推進本部を設置して男女共同参画の推進にとり組んできており、事業所内保育所の開園、女性研究者の比率の増加など、一定の成果を上げてきました。このたびはさらなる研究活動支援の整備を行う構想として、「学芸の森が育てる女性の力」プロジェクトを提案しました。実施予定期間は平成 23 年度～平成 25 年度です。

このプロジェクトでは図に示したように、I ライフイベントと研究活動を両立させるための諸支援、II 男女共同参画に向けての意識啓発活動、III 女性研究者の増大および裾野拡大に向けての支援の三つの柱を活動の中心におき、女性研究者支援を進めていきます。これら三つの活動を推進する組織として、男女共同参画推進本部の下に、新たに男女共同参画支援室を設置します。この支援室には、室長（本部長兼務）、兼任教員（本部員との兼務など）に加え、新たに採用するコーディネーター、主任研究員、補助員、事務員が配置されます。また支援相談室を設け、常時のカウンセラーを配置します。

東京学芸大学女性研究者研究活動支援事業　学芸の森が育てる女性の力



このプロジェクトの達成目標として以下の５つをあげています。
(1) 全学の女性研究者の在職比率を、教授 20%、准教授 25%、講師 50% まで引き上げる。
(2) 女性教員比率が 10%以下の講座をなくす。
(3) 最低でも 3 名が、育児休業中に研究発表を行うようにする。
(4) 女性研究者の競争的資金獲得を現在より 10% 高める。
(5) 女子学生比率 30% 未満の教室をなくす。

この目標を達成するために、以下のような支援を計画しています。
Ⅰ　出産・育児・介護などのライフイベントと研究活動との両立支援
保育・介護を担っている研究者が研究活動を推進するために必要な、保育や介護などの様々なサービスを提供する。さらに女性研究者のニーズは個々に様々であることから、それぞれの研究者のニーズにあったサービスを提供するため、コーディネーターによるアドバイスを行ったり、先輩女性研究者による相談、助言を行うことも含めたメンター制を導入する。
ライフイベントと研究活動の両立を行いやすいように、夜間授業の免除や休日や夜間勤務への配慮、在宅勤務や時短・フレックスタイムシステムなどの勤務条件の整備を行う。
育児・介護を担う女性研究者がいる講座に研究補助員を配置し、研究活動の支援を行う。
Ⅱ　男女共同参画に向けての意識啓発活動：
　意識啓発のためのフォーラムおよびＦＤ研修会を開催する。
　女性研究者がお互いに情報交換を行って（例えば女性の会）女性研究者の課題を明らかにしたり、女性の研究活動をお互いに支え合うネットワークを形成する。
　男女共同参画白書を充実させて引き続き発行するとともに、ニュースレター（OPGE 通信）の発行回数を増やし、さらなる情報を提供するとともに、ホームページを充実させ、本学の男女共同参画の活動内容をより広く発信する。
Ⅲ　女性研究者の増大および裾野拡大
　女性研究者比率や女子学生比率の増加を諮るポジティブ・アクションを実施する（例えば、女性研究者が 10%以下の講座が女性研究者を採用した場合には研究補助員を 1 年間配置する。女子学生の割合が 30%以下の教室で同割合が 30%以上になったときに、授業補助員 1 名を 1 年間配置する。自然科学系およびその周辺分野の女子大学院生を対象にした研究助成金を補助する）。
　育児・介護を担う女子学生に保育を支援したり、メンター制を整備して、研究活動のサポートを行う。
　現在「フロンティア科目」で開設している女性学・ジェンダー関連授業を拡充するとともに、ジェンダーに関する一連の科目を履修することを認定し、男女共同参画マインドを持った学生を育てる。
　小中高の学校で働く理系女性教員が少ない状況を打開すべく、本学の理系女子学生を増やし、その学生たちが女性理系教員になっていくための支援を充実させ、学校現場における女性理系教員を増やすための試みを行う。
　また、小学校教員になる本学女子学生の理数力を強化することにより、その女性教員をモデルとする理数系に強い児童、生徒の増加をめざす。

　これらを進めていくために、女性研究者のニーズや実態調査などのアンケート等を実施し、取り組みの向上のための資料とします。それとともに、結果を広く公表し、本学の教職員・学生に、本学の現状についての理解を深め、取り組みの意義を広く知っていただきたいと思います。

（総合教育科学系　大竹美登利／自然科学系　竹内伸子）

毎月八日の昼食は「∞（無限）の会」で

9 月 8 日のお昼休みに女性教員対象の「∞（無限）の会」がひらかれました。参加者は、大竹副学長他、約 10 名でした。場所は、前回同様に第一むさしのホール 1 階教職員用ラウンジで、ここは生協購買部と食堂の間にできた素敵なラウンジ、話が弾むような形に組み替えられるテーブルも設置されています。参加者からは、このような場所が他にもほしいとか、この場所をお昼には教職員にオープンにして、お昼を食べながら気軽に会話ができるようにしてほしいなどの話が出ました。教員同士がお昼を一緒に食べてコミュニケーションを図るような場所が無い教室や講座がほとんど、という問題点も挙げられました。そのような場所があることで、女性教員の現状についての理解も深められるのではないかということでした。その他、「理系の分野に女子が入学志望をするような仕組みがほしい」「理系の分野の女性研究者が増えるように、学生に対しての対策が必要」「附属校で、女子教員が増えないのはどうしてなのか」と言ったような話題が出ました。参加するメンバーによって、話題は変わります。毎月「8」の日に開催する予定です。次回は、12 月 8 日木曜日のお昼休みです。是非、気軽に参加して下さい。　　（総合教育科学系　倉持清美）

第 12 回男女共同参画フォーラムのお知らせ

「女性の視点を生かす大学運営」
学芸大学では男女共同参画推進本部が中心となって学内保育所の立ち上げなど、これまでも女性教職員の働きやすい環境作りに努めてきました。この度、「女性研究者研究活動支援事業」の助成を受け、学内に支援室を立ち上げ女性研究者の有職比率を引き上げる取り組みを始めることになりました。
本フォーラムでは、その助成の概要について広く知っていただくとともに、大学等研究機関の女性管理職の先生方による鼎談を行います。女性学長等が公式に集まって鼎談をするのはこれまでになく画期的な企画です。ライフイベントと研究を両立できる研究環境の整備や意識啓発や裾野拡大の取り組みなど、ご自身の経験もふまえこれから大学運営や研究者に期待されることを語っていただき、ご参加いただく皆さんと一緒に考えたいと思います。

Ⅰ　日時：2011 年 12 月 7 日（水）
Ⅱ　場所：東京学芸大学　S410 教室
Ⅲ　プログラム
1　「女性研究者研究活動支援事業」本学の取り組みについて
竹内　伸子　東京学芸大教授
2　シンポジウム
天野　正子　東京家政学院大学長
江原由美子　首都大学東京副学長
村松　泰子　東京学芸大学長

進行役
大竹美登利　東京学芸大副学長

共に成長する日々　人文社会科学系　白勢彩子

働きながら子供を育てる女性の研究者が増えているように思える。研究者に限ったことではないかもしれない。そう思って調べてみると、子を持つ女性の有業率は上昇傾向にあるという（統計局平成１９年就業構造基本調査より）。しかし、よく見れば「末子が３歳未満の家庭で妻が有業の率」は３割程度である。幼い子供を抱えて母親が働くことはまだまだ劣勢で、子を持ち仕事ができることは恵まれた環境にいるのだ。優しく言葉をかけてくださる講座の先生方、家族に感謝申しあげる。何より私が感謝することは、職場である大学に保育園ができたことだ。

育児休業から仕事に復帰しようとした当時（２００９～２０１０年冬）、ニュース等で「待機児童」の言葉が多く流れた。リーマンショックの影響か、保育園希望者が急増した年で、保育園が不足していた。厳しいとは知りつつも、両親がフルタイムで働いていれば入園できるだろうと、安易な気持ちでいたことがいけなかったようで、都の認可保育園は選外となった。認可外の保育園も１０以上回ったが、すべて断られた。そこへ、ただひとつのよい知らせ。学芸の森保育園の開園である。大学に保育園がなかったら、今頃どうしていたかと恐ろしい気持ちになる。保育園の設立に関わったみなさま、ご協力くださった先生方に改めてお礼申しあげたい。

子供を預けることでプラスになることは、仕事が両立できることだけではない。保育園のスタッフみなさまが心温かく、一人一人を見守ってくださっている。親の手が行き届かないところに対応して共に育ててくださり、子供のことで悩むことがあれば、我が子の様子に応じて助言をいただける。心強く、ありがたい。

と、感謝ばかりであるが、子供を育てて仕事をする毎日は、聞いていた以上にめまぐるしく、気がつけば自分の時間はほとんどない。感謝の気持ちを忘れそうである。「もうすぐしゃんしゃい（３歳）」と、指を３本見せて威張る息子だが、出勤前の朝食で、こちらがうっかり考え事をしようものなら、パンを口いっぱいほおばりニコニコして喉がつまりそうになり、あわてて牛乳を飲んで服にこぼす。「一口は小さく！」「あわてない！」「よそ見しない！」「まっすぐ座るの！」・・・ああ、出かけるまで５分しかないのに歯磨きしてない、着替えてない、子供の熱も測ってない！　つい声を荒げてイライラしてしまうのだが、考えてみれば、この世に出てきて３年しか経っていないのだ。自在に手足を動かせるようになればうれしくて、こちらから見れば「余計なこと」でもしてみたくなるのだろう。見るものすべてが新しく、好奇心でワクワクだろう。自分では忘れていても、私もこうした成長の過程をたどったのだ。保育園の先生を見習って、広い心で受け止めよう。できるだけ・・・

成長していくのは子供だけではない。親はもちろん、小金井クラブで始まった保育園も、園舎を得、イルカやフクロウがやってきて、先生、園児が入れ替わり、と、成長しているように見える。これからどのような歴史を重ねていくのだろうか。

人事課職員係のお問い合わせ先
●人事課職員係　清水
●内線：7123
●E-mail：syokuin@u-gakugei.ac.jp
●FAX：042-329-7127

東京学芸大学男女共同参画推進本部
〒184-8501　東京都小金井市貫井北町 4-1-1
TEL：042-329-7108　FAX：042-329-7114
E-mail：danjo@u-gakugei.ac.jp
URL：http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/
詳しい情報等はホームページでご覧ください。